

○中島源陽委員長 続いて、社民フォーラム県議団の質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて五分です。熊谷義彦委員。

○熊谷義彦委員 今回提出している米価下落に伴う一連の予算は、中身を見ても新型コロナウイルス対策としての予算なのか米価下落対策及び来年度の生産調整誘導策としての予算なのかどうも総花的でインパクトがない予算に見受けられますが、いかがですか。

○宮川耕一農政部長 今回の補正予算は今年産みやぎ米のJA概算金下落に対応するための対策ですが、その下落の主な要因は新型コロナウイルス感染症の影響による業務用米の需要減少などにより在庫が増えたためと認識しております。また、人口減少などにより今後も毎年十万トンペースで我が国の米の需要減少が続くことが予想されておりますので、需要に応じた生産を図ることも重要と考えております。県としてはこうしたことを踏まえて農家経営の安定に向け短期的な対策としてインターネットを活用した販売支援等の消費拡大対策を、また、中長期的な対策として需要のある大豆、麦、園芸作物、飼料作物への作付転換を支援することで我が県の農業の発展を目指してまいりたいというところでございます。

○熊谷義彦委員 さきに答弁されたようなことは繰り返さないで結構です。忘れていけないのは去年、おとしの十二月段階で生産調整の数値が国から示されても余剰米が出てくるだろうという予測があつて深掘りをしたという経過があります。深掘りをしたのは宮城県の農業政策としてやったんですから、農業者に何ら責任はないわけです。結果としてコロナの影響でああいう状況になっていったことは私も承知しています。その一方で、やはり国の支援を受けて深掘りしてもなお余剰が出てくるだろうということを予測し得なかったということも大きな原因だろうと私は思います。これの答弁は要りません。

今回の予算についてはこれまでの新型コロナウイルス支援と比較するとあまりにも小規模であつて農業者の期待には応えられないと思えますが、知事、感想はいかがですか。

○宮川耕一農政部長 農業者の所得対策ということでございますけれども、この予算に限らず、加入要件がございますが国においてナラシ対策あるいは収入保険等のセーフティネットが既に準備されております。また、持続化給付金などこれまで新型コロナウイルス感染症対策における国の支援策がございますが、そういったものの中にも農業者

が活用できるものがございます。更に、農林水産省の支援策である経営継続補助金による支援が行われておりまして、我が県の活用実績は二千八百六十六件ございます。しかしながら、米の需給バランスが崩れた状態が続いた場合に農業者が安定的な経営を行うためにはどうしても作付転換が必要であり、需要に応じた生産となるよう誘導する必要がありますので、そのための予算をお願いしているということでございます。

○熊谷義彦委員 前に言ったことしやべらないでいいから。知事、聞いてほしいんだけど、最終生産で仮に一万円となってもJAの場合はそこから二千四百円から二千五百円差し引かれるんです。ですから、仮に最終生産が一万円でも手取りは七千五百円程度にしかならない。これで農業をやれと、できないですよ。持続可能な農業なんて言うたってできない。だからこういう状況で生産調整に応じた農家に対してはきちんと価格補填をするということが大事だという観点からお話を申し上げております。

それで質疑します。いわゆる余剰米は競争によってもなお残るだろうと思っておりますが、見通しはどうですか。

○宮川耕一農政部長 農業団体に伺った限りでの話になりますけれども、令和二年産米の販売先は決まったということですが、実際にそれが消費されるまでには相当の時間がかかるというふうに伺っております。そういった中で令和三年産米の販売が急務になっているわけでございまして、その点については委員がおっしゃったとおり大変厳しい状況だと思っております。だからこそ、しっかり対策を打っていかねければいけないと考えております。